

## 55 屋久島灯台

## 56 屋久島灯台石塀

屋久島灯台は、東シナ海を臨む島内最西端の永田岬に位置する灯台で、日本本土から台湾に至る南方航路整備のために建設された8つの灯台のひとつです。明治30年（1897）1月に最初の明かりが灯され、以後大きな改変もなく当時の姿を留めています。

建物はレンガ造りで積み上げた表面をモルタルで覆っており、床や階段等の一部は溶結凝灰岩が使われています。また、設計者である石橋<sup>いしばしあやひこ</sup>絢彦氏がイギリスに留学していたことから、イギリス積みと呼ばれるレンガの積み方や、上下一直線に並ぶ出入り口や窓の配置、灯室の形状など、随所にスコットランド風の建築様式が見られます。

本灯台は鹿児島県下に残る灯台の中では唯一、明治期からの姿を現在に留めており、その建築様式も含め歴史的な価値の高い建造物であることから、令和3年に国の登録有形文化財となりました。

さらに、灯台の敷地を囲む石塀も同様に登録されました。この石塀は屋久島の大部分を形成する鉱物である花崗岩を切り出し加工したものを3段積み下段とし、上部はレンガを3段積みモルタル塗で仕上げ笠石状に形成しています。

### ○ 施設の概要

- ・位 置 北緯 30度 23分 19.35秒 / 東経 130度 22分 53.95秒
- ・構造・規模 灯台 レンガ造り, 119.3 m<sup>2</sup> / 石塀 石造り, 全長 136m
- ・高 さ 灯台 19.6m / 石塀 約 1.4m
- ・等級及び灯質 3等 単閃白光 毎15秒に1閃光
- ・光度及び距離 120万カンデラ 22海里 (約41km)
- ・そ の 他 明治期灯台Bランク

### ○ 灯台及び周辺

